

モジャコ漁場調査

谷本 剛・三好亮徳・今治美久

・悦田 明・松本一樹・藤岡保史・渋江 文

ブリ稚魚（通称モジャコ）を養殖用の種苗として採捕するモジャコ漁の計画的・効率的な操業に資するため、流れ藻に蛸集するモジャコの来遊状況と漁場環境の調査を資源評価調査事業の一環として実施した。

調査方法

モジャコ漁解禁（4月25日）前の4月22日に、漁業調査船とくしま（鋼製80トン、1,200馬力）で、図1に示した調査コースを航走して流れ藻及び潮目を目視で探索し、調査コース上の流れ藻の分布状況を記録するとともに、比較的大きな流れ藻を網口9.5mのまき網を用いて採取した。採取した流れ藻は船上で重量を測定した後、付着しているモジャコ等の稚魚を分別した。採捕した稚魚は魚種を査定して個体数を計数し、モジャコは尾叉長と体重を測定した。また、航走中は古野電気製水温計T120-Eで表層水温を連続観測した。なお、今年度は悪天候によりモジャコ漁解禁後の調査は実施できなかった。

調査結果

(1) 海況

黒潮は、室戸岬沖では「やや離岸」、潮岬沖では「著しく離岸」で推移していた。室戸岬沖から海部沿岸に向けて黒潮からの暖水波及がみられ、海部沿岸南部では17～18℃台の外海水が差し込んでいた。一方、海部沿岸北部では紀伊水道から14℃台の内海水が下っていた。

漁業調査船「とくしま」による調査航路上の表層水温は15.8～19.2℃で推移した。

(2) 流れ藻の分布

阿瀬比灯台から185～186°，距岸8.7マイル付近で潮目があり小型の流れ藻がわずかに見られた（採取地点1及び2）。さらに沖合の阿瀬比灯台から176～183°，距岸21.3マイル付近で、単発ながらやや大型の流れ藻が見られた（採取地点3及び4）。日和佐への帰路、阿瀬比灯台から167～168°，距岸19マイル付近で中型～小型の流れ藻がわずかに見られた（採取地点5及び6）（表1，図1）。調査航路上における流れ藻の分布は極めて少なく、サイズも中型～小型のものが多かった。

(3) モジャコの付着状況

流れ藻採取地点の6地点で採捕したモジャコは合計35尾であった。モジャコの採捕数は、流れ藻のサイズに比例していたが、平均的に少なかった。一方、モジャコのサイズは大きく、100mmを超える大型のサイズが5尾採捕された。今回の調査で採捕したモジャコの尾叉長範囲は17～177mm、平均65.1mmであった（表1，図2）。

表1. 流れ藻の採取地点とモジャコの採捕状況

採集日	採取地点	採取位置				表層水温 (°C)	採取した流れ藻		モジャコ 採捕数	モジャコ尾叉長(mm)		モジャコ以外 採捕数
		北緯		東経			直径(m)	湿重量(kg)		最小～最大	平均	
4/22	1	33°	35.418'	134°	32.848'	18.5	1.5	5.5	1	50	50.0	シマアジ1
	2	33°	35.402'	134°	32.600'	18.9	1.0	3.0	3	24～43	32.3	
	3	33°	22.629'	134°	32.086'	18.5	2.5	9.5	8	17～177	83.6	カンパチ1, メバル2
	4	33°	23.116'	134°	35.247'	18.6	3.0	13.5	13	36～103	70.5	メダイ4, メバル3
	5	33°	25.587'	134°	38.815'	18.9	2.0	11.5	8	25～102	49.1	メダイ8
	6	33°	25.839'	134°	38.644'	18.7	1.5	4.5	2	35～117	76.0	

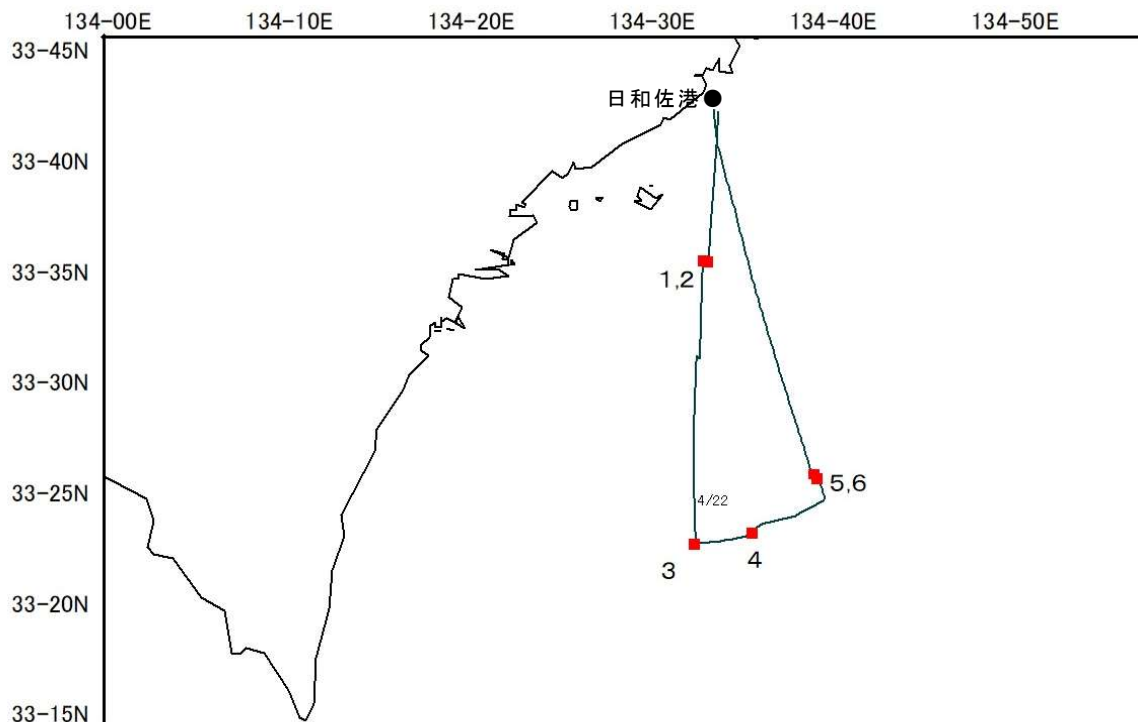


図1. モジャコ漁場調査の航跡と流れ藻の採取地点
添え数字は表1の採取地点番号を示す

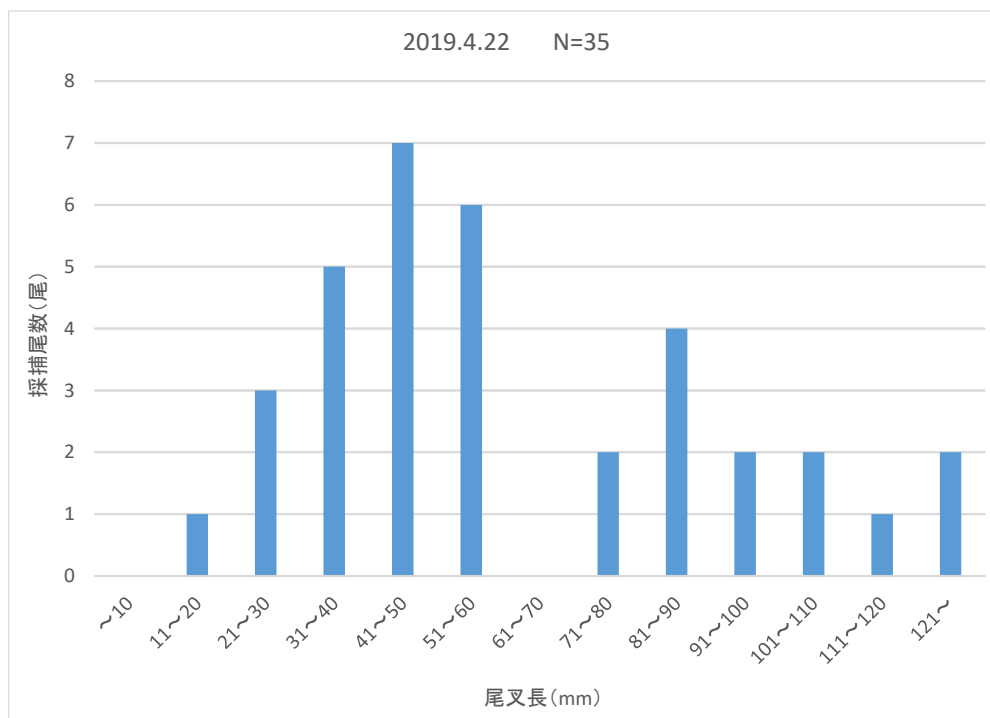


図2. 採捕したモジャコの尾叉長組成